

「連合2025平和行動 in 沖縄」派遣団報告

～連合平和オキナワ集会に、全国から1,000名が結集～

語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう！

連合は、沖縄「慰霊の日」である6月23日から24日にかけて「2025平和行動 in 沖縄」を現地・沖縄県で開催し、式典には全国から1,000名が参加した。連合福島からは、伊達地区連合の鈴木副議長を団長に5名で参加した。

23日、「那覇文化芸術劇場なは一と」で行われた平和式典では、屋良朝博・衆議院議員の「新たな安全保障を目指して！」をテーマにした基調講演の後、沖縄戦で亡くなられた御霊と世界中で起きている戦争や紛争で尊い命を落とされた方々のご冥福をお祈りし、参加者全員で黙祷を行った。連合清水秀行事務局長からは、「戦後80年。平和の尊さ、戦争の悲惨さを、次の世代にしっかりと語り継ぎ、二度とこのような悲劇を繰り返さないことを、固く誓い合うとともに、将来にわた

って平和運動を継承し、継続していくためには、私たちが語り継いで、次の世代へと確実に繋いでいかなければならない。私たち一人ひとりが平和運動の担い手・発信者となり、この輪と一緒に広がっていきましょう。」と挨拶があった。来賓あいさつの後、堀川恵・連合沖縄女性委員会委員長が平和アピール（案）を読み上げ、満場一致で採択し、集会を終了した。

翌24日は、平和研修行動として、瀬嵩の浜（辺野古）～嘉手納基地～チビチリガマ（集団自決の地）～普天間基地を



ピースリレー（連合沖縄から連合広島へ）

望む嘉数高台公園展望台などを視察した。辺野古基地建設では周辺道路に多くの工事車両の出入りがあり、埋め立てによる海の生態系へ懸念、なにより新基地建設に対する県民との禍根は根深いと感じた。嘉手納や普天間基地の見学では、広



基地建設中の辺野古を視察

大な敷地に米軍兵の住居や娯楽施設等も整備

され、米軍基地への負担の重さと、県民の生活を脅かす騒音と悪臭、河川の水質汚染、米軍機からの落下物など日常生活においても危機感を感じた。チビチリガマでは、戦時中の爆撃を逃げるための避難場所に使用された自然洞窟（ガマ）の1つで、当時の戦時教育と米軍上陸によるパニックがきっかけとなり、約80名もの自決者が発生し、その過半数が子どもだったという悲惨な過去を振り返った。沖縄戦で命を失った全ての犠牲者に哀悼の意を捧げるとともに、恒久平和の実現に向けた平和運動継続の重要性を強く感じた。梅雨明けの猛暑の中での行動ではありましたが、鈴木団長の統率のもと参加者が協力し、成果を上げられたことに感謝申し上げます。



連合清水事務局長からの挨拶



連合福島沖縄平和行動派遣団